

をしらないか、又其の日の米代さへあれば明日のことは考へずに遊び歩いてゐるかが、よく御解りになりますませう。

月に一回、夜の會といふものがありました、いつも五十人位が集ります。蓄音機を聞かせ、茶菓を出して、御機嫌を取るやうにして、會へ出席することを奨励してやります。家庭の身の上相談のやうなものにも、絶えず訪問して相談相手となつてやり、子供の誕生と戸籍のことや、又お金に困つてゐる人々等、一々世話をして居ります。

私共の事業ももつと、資本をかけて充分やりたいと存じて居ります。この託児所が創立したてには、諸方から寄附がありましたので、子供達にも毎日おやつを與へることが出来ました。近頃は其やうな道も絶えてしまつて、子供等におやつをやることもしません。子供達は馴れて愉快に暮して居ります。

又唯今迄、私と一緒に保母としてこの託児所に働いて居た方が、縁談の爲め歸國しましたので、私一人になりました。どうしても、私一人では多忙でしかたがありませんから、若い婦人の方で獻身的にこの事業に働くといふ方があれば、好都合と望んで居

ります。

相手ほしや、

義三さんは七つになりました。このごろの晴天つゞきの毎日を遊び相手としては、近所の進さん(六歳)一人です。朝早くから日かげる迄、二人に何とかして遊んでゐます。幸、車馬の通らない家の前を二人は我がものにしてその道に塵を敷いてみたり、三輪車を走らせて見たりしますが、たつた二人で、それも毎日同じ遊び相手とて、直きに飽きて來ます。「母さんお菓子頂戴……」と遠くの方から言ひながら支關にかけつけることが三十分毎におこります。ある時はお隣の壺所口をのぞいて「小母さん！あそびませう」と相手をもとめ、一寸お母さんの目をぬすんでは二階の窓から抜け出て屋根に上つてゐます。「まだお晝ぢやないのか」と朝飯のすんで、やつと一時間とたゝぬ間にはやお晝飯をまちます。

\* \* \* \* \*

幼稚園に通つてゐたらば、……と二人を見ることに私はさう思ひます(丁子)